

第173回 令和8年2月10日（火）

## 「川和の歴史について」

「川和の歴史」といっても川和高校の歴史ではなく、川和町の歴史を調べてみました。川和宿（かわわじゅく）は、かつて神奈川県横浜市都筑区に存在した宿場町であり、江戸時代の街道沿いに形成された宿場として機能していました。

川和宿は現在の神奈川県横浜市都筑区川和町付近に位置しており、江戸時代に多くの人々が利用した。宿場町としての役割があり、物流の重要な拠点として機能しました。川和宿は、周辺の農産物や工業製品の集積地、また中継地点としても重要な役割を果たしていました。

川和宿には、宿屋や茶屋、商店、馬継ぎ場（馬替えの施設）などが存在していたと考えられます。川和宿は、横浜付近および神奈川県の他の宿場町と密接に関係していました。例えば、周辺の農村地域から物資が集められ、それが川和宿を経由して江戸や他の都市に運ばれていたと考えられます。

明治時代になると日本全体で交通が変化し、鉄道網が整備されるにつれて宿場町を中心とした街道の役割は徐々に減少していきました。川和宿も例外ではなく、鉄道や近代的なインフラの整備によってその地位を失い、都市化が進んでいくにつれて元々の宿場町としての形は消えていきました。

川和宿に関する地名や施設の名残は現在でもいくつか確認されています。「川和町」は川和宿があつた場所の名称として用いられた「川和」がそのまま地名として残存しており、横浜市営地下鉄グリーンラインにある「川和町駅」が、川和宿の名残を現代に伝えています。

川和宿に近い地域の地名や施設にも、歴史の名残が見られる場所がいくつかあります。一つが「小倉（こぐら）」で川和宿の街道を挟んで近くに位置する地域です。昔の街道沿いに栄えた場所で、現在もその地名が残っています。「見花山（みはなやま）」は川和宿周辺の丘陵地帯に位置し、古い地名とともに利用されています。

ちなみに市ヶ尾の名前の由来は、「市が立つ尾根」という説が最も一般的であり、地域の地形や商業・交流の要素を強く反映しています。ただし、具体的な記録が少ないため、その背景については地域の郷土史や資料をさらに深く探ることで、より詳細な情報が得られるかもしれません。

荏田の由来は、植物のエゴマ（荏胡麻）に関連していると言われています。古代に荏田周辺では荏胡麻が栽培されていた可能性があり、地名に「荏」が含まれるようになったと考えられます。

一方江田（えだ）の由来は、水辺や川に関連する文字です。これは、江田が自然地形や川沿いの環境に由来する可能性を示しています。なぜ2種類使われているのか、もしご存じの方がいたら教えてください。